

有名人のプライバシー登録簿

Leveson裁判官が著名な人物がメディアへの露出への不参加を選択することができるように有名人のプライバシー登録をするという提案をしたことが雑誌編集者の間での議論を呼びました。以下、Sebastian Huempferが書きます。



2011年に起きた英国での電話盗聴スキャンダルを受けて、メディア倫理について調査をしているLeveson裁判官が、有名人のプライバシー登録簿を作るという提案をしました。この登録簿によって、メディア露出のある人々はプライバシーを守りたいという旨を登録することができるようになり、メディア媒体がそのような登録をした人々のプライバシーの侵害をした場合は制裁が課せられることとなります。

この提案は、ヒアリングの場において、有名人に関する記事を取り扱う雑誌のいくつかの支持を受けることはできました。しかし、全ての雑誌がこの提案を歓迎することはありませんでした。セレブ関連の雑誌OK!の編集者であるLisa Byrnelは、全ての有名人がこの登録をしてしまえば、提案はうまく機能しないだろうと述べています。一方、Heatの編集者であるLucie Cavelは、そのような登録簿は、有名人が私的な行動とは相反する形で自分たちの表現をすることを許すことになるため、そのような二重基準を明らかにすることが実際に公共の利益となるだろうと指摘しています。広告会社OutsideのCEOはBBCの放送でそのような登録簿は「うまく行かないし、実用的なものではない」と主張しました。

言論の自由についての討論

Thirteen languages. Ten principles. One conversation.

<https://freespeechdebate.com/ja>

出版日 : 2月 20, 2012